

言語研究法 ('19)

第5回 音韻論② 5-1

1

言語研究法 ('19) 第5回 音韻論②

日本語の音韻論

(<第7講> & <第9講>)

2

今回のポイント

- 日本語の音素体系
音素はいくつ？ 配列の仕方は？
- 日本語の音韻論で特徴的な「モーラ」
音節とモーラの違い、単位としてのモーラ
- 日本語のアクセント

3

日本語の音素

母音： i e a o u

半母音： j w

子音： p t s c k h
b d z r g
m n

それ以外：「っ/ん/ー」などはどうする？

4

促音「っ」：どう発音される？

様々な単語の中で「っ」はどう発音される？

「いっぱい（一杯）」 [ippai]

「いったい（一体）」 [ittai]

「いっさい（一切）」 [issai]

「いっかい（一回）」 [ikkai]

↓

後続子音に同化して（逆行同化！）発音が決まる
「っ」は多様な音声として発音されていた！

言語研究法 ('19)

第5回 音韻論② 5-1

5

促音「っ」：どう解釈する？

- 案1 /ippai/ /ittai/ /issai/ … のように分析する
 案2 /iQpai/ /iQtai/ /iQsai/ … のように分析する

メリット・デメリット

- 案1 実際の音声には忠実だが、促音としての一体性は表現されない
 案2 促音としての一体性は明瞭だが、実際の音声はわからない

6

促音「っ」：どう解釈する？（続）

考慮すべきこと：

- ・促音としての機能はあり 例：促音便「持つて」
- ・促音かどうかによる最小対も存在する。
 「な**っ**ば(菜**っ**葉)」vs 「な**ん**ば(ナ**ん**バ)」〔撥音〕
 「ふ**っ**とう(沸騰)」vs 「ふ**う**とう(封筒)」〔長音〕

↓
 1つの音素として解釈したい（記号は何でも）

7

撥音「ん」：どう発音される？

そういえば、前の授業で、
 「温泉饅頭あんどうなツパン」
 (お**ん**せんま**ん**じゅうあ**ん**どーな**っ**ぱ**ん**)
 が出てきていた、
 あれはどう発音される？

[oūsem**an**dzu: ando: nat**u**pa**n**]

↓
 これも後続音からの逆行同化で発音が決まる

8

撥音「ん」：実際の発音は何通り？

後続音の調音位置などによって多様な発音

- [m]/__唇音
- [n]/__歯音
- [ŋ]/__歯音（後ろが母音 i や半母音 j のとき）
- [ɲ]/__軟口蓋音
- [N]/__語末
- 鼻母音 /__ s, h, 母音, 半母音

言語研究法 ('19)

第5回 音韻論② 5-1

9

撥音「ん」：どう解釈する？

案1 /ompw/ /entocu/ /aŋko/ … のように分析する

案2 /onpw/ /eŋtocu/ /aŋko/ … のように分析する

メリット・デメリット

案1 撥音としての一体性がない上に、これだけのために音素 /ŋ/ など立てなければならない

案2 撥音としての一体性は明瞭だが、実際の音声の多様性はわからない

10

撥音「ん」：どう解釈する？ (続)

考慮すべきこと：

・撥音としての機能はあり 例：撥音便「読んだ」

・撥音かどうかによる最小対も存在する。

「なんば(ナンパ)」vs 「なっぱ(菜っ葉)」〔促音〕

「てんき(天気)」vs 「定期(ていき)」〔長音〕

↓

1つの音素として解釈したい (記号は何でも)

11

特殊拍 (モーラ音素)

促音「っ」、撥音「ん」や、長音 (引き音) 「ー」なども、独立した音素として認めようという考え方

促音 /Q/

撥音 /N/

引き音 /R/

(二重母音 /ai/ /oi/ など副音部のイ /J/)

言語研究法 ('19)

第5回 音韻論② 5-2

12

音節とモーラ

■音節とは？

音節とは「1つの母音を核とする音声的まとまり」
どの言語にも「音節」はあり、もちろん日本語にも

■日本語では音節より「モーラ」が顕著

リズム単位として、モーラで拍子を数える慣習
例：五七・七五調

13

数えてみよう…

五・七・五はこんな風に…

言語学〔げんごがく〕

かじってみるか

オンライン

14

日本語の音素はどう配列されるか？

子音をC、母音をV、モーラ音素をM、で表すと以下のフレームに

← 1 音 節 →
← 1 モーラ → ← 1 モーラ → ← 1 モーラ →

子音	半母音	母音	母音的	子音的
C1	C2	V	M1	M2
p b m	j	i	R	Q
t d n	w	e	J	N
s z r c		a		
k g		o		
h		u		

15

ではクイズを…

Q. 日本語で、1語で1音節の最も長い語を考えたい

先ほどの音節構造で3つのスロット全部を埋める…

「ビューツ」 /bjuRQ/

「ニャーン」 /njaRN/

「キャイン」 /kjaJN/

→ これらはすべて1音節で3モーラの単語

言語研究法 ('19)

第5回 音韻論② 5-2

16

ここまでの整理を応用問題で

「モーラ音素の分布における規則性」

Q. 下の左と右の列を比較して、/Q/と/N/の分布（現れ方）が規則的であることを説明してみたい

あ <u>っ</u> さり	あ <u>ん</u> ぐり
き <u>っ</u> ちり	こ <u>ん</u> がり
す <u>っ</u> きり	し <u>ん</u> なり
た <u>っ</u> ぶり	た <u>ん</u> まり
に <u>っ</u> こり	に <u>ん</u> まり
ば <u>っ</u> たり	ふ <u>ん</u> わり

5

17

モーラ音素の分布における規則性（続）

あ <u>っ</u> さり /aQsari/	あ <u>ん</u> ぐり /aNguri/
き <u>っ</u> ちり /kiQciri/	こ <u>ん</u> がり /koNgari/
す <u>っ</u> きり /suQkiri/	し <u>ん</u> なり /siNnari/
た <u>っ</u> ぶり /taQpuri/	た <u>ん</u> まり /taNmari/
に <u>っ</u> こり /niQkori/	に <u>ん</u> まり /niNmari/
ば <u>っ</u> たり /paQtari/	ふ <u>ん</u> わり /huNwari/

ヒント：QもNも逆行同化で発音が決まるのだった…

10

15

18

モーラ音素の分布における規則性（続々）

ヒント：QもNも逆行同化で発音が決まるのだった…

あ <u>っ</u> さり /aQsari/	あ <u>ん</u> ぐり /aNguri/
き <u>っ</u> ちり /kiQciri/	こ <u>ん</u> がり /koNgari/
す <u>っ</u> きり /suQkiri/	し <u>ん</u> なり /siNnari/
た <u>っ</u> ぶり /taQpuri/	た <u>ん</u> まり /taNmari/
に <u>っ</u> こり /niQkori/	に <u>ん</u> まり /niNmari/
ば <u>っ</u> たり /paQtari/	ふ <u>ん</u> わり /huNwari/

20

25

19

モーラ音素の分布における規則性（続々々）

第3モーラの子音を左右で比べてみると？

左：s c k p k t 右：g g n m m w

→ おお！左の系列は無声音、右の系列は有声音！

→ つまり、こういうこと？

Q/_ 無声音 N/_ 有声音

→ じつは「AっBり」と「AんBり」は同じ型？

30

35

第5回 音韻論② 5-2

20

モーラ音素の分布における規則性 (答)

「A M Bり」の形をしたオノマトペにおいて、

M → Q / _ 無声音
N / _ 有声音

ということに過ぎなかった…

これは音韻論的解釈なしにはわかり得ないこと

5

10

15

20

25

30

35

言語研究法 ('19)

第5回 音韻論② 5-3

21

超分節素：アクセント

- **超分節素**：音 (分節音) や音のまとまりに対して、
音の高低や強弱を利用してかぶさるように機能する要素
- 高低や強弱で音のまとまりにかかる → **アクセント**
- 高低による **音調曲線** で分節音自体を区別する → **声調**

日本語は**高低アクセント**で語を区別する言語

22

日本語（共通語）のアクセント

単語のモーラ数 n に対して $n+1$ 通りのパターン
(高=H, 低=L, 下がり目=∩)

- 1モーラ：蚊(が) L(H) 手(が) H∩(L)
- 2モーラ：道(が) LH(H) 箸(が) H∩L(L) 足(が) LH∩(L)
- 3モーラ：雫(が) LHH(H) 嵐(が) H∩LL(L)
卵(が) LH∩L(L) 頭(が) LHH∩(L)

23

アクセントとモーラ

- **モーラ音素とアクセントの関わり**
- モーラ音素の直前にアクセントの下がり目がくる例
投手(とうしゅ) /to¹Rsju/ バント /ba¹Nto/
- モーラ音素の直前にアクセントの上がり目がくる例
速球(そっきゅう) /so¹QkjuR/ (「で上がり目を示す」)
三振(さんしん) /sa¹Nsin/
- 音節リズム方言では、「投手」は /to¹Rsju/、「三振」
は /sa¹Nsin/ というのがある